

にこで



2019年春号 南区地域子育て支援拠点はぐはぐの樹 発行

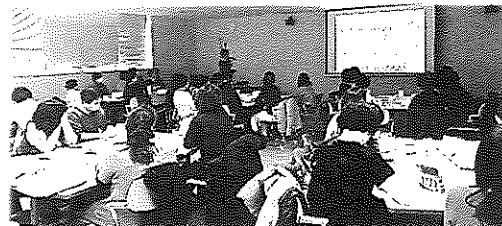
春爛漫のこもち良い季節になりました。かわいい新入園生・新一年生も微笑ましいですね。新しい生活で少し緊張しながら通園・通学する姿を皆で見守りたいと思います。地域ぐるみで子育て・子育てを支えていきましょう！

第2回南区子育てもっとネット全体会議 報告

平成31年2月27日(水)14時~16時 南区役所4階 多目的室
出席：59名(事務局含む)

今年度のもっとネット全体会議は「つながり」をメインテーマに、話し合いが具体的な取り組みに発展するよう工夫しました。第2回は4つの地域ケアプラザから「地域と繋がりも持って行った子育てに関する取り組み」について発表してもらい、その後、グループワークを行いました。

第1回に続き、エリアごとにグループ分けをしたこともあり、活発な話し合いになりました。ここから、連携した新しい取り組みが生まれ、親子への支援がさらに広がればと思っています。ご協力よろしくお願いします！



グループワークで出た意見(抜粋) 「つながりを活かした支援について」

永田地域 ケアプラザ	永田みなみ台ちびっこプールの開設・運営を支援/子育て世代向け連続講座の開催	担い手さんは講座の講師も
大岡地域 ケアプラザ	マタニティヨガ講座(出産後は同窓会、サークルに)	妊娠期から細く、長くもっとネット会議がきっかけでした
浦舟地域 ケアプラザ	打楽器コンサート&カフェタイム/親子で遊ぼう!/ボランティア入門講座で子育ての回/サロンで歯科・食育講座	
六ツ川地域 ケアプラザ	新たに発足した子育てサークルへの支援(関係機関との繋ぎをコーディネート)	大事に応援していきたい!

- ◆ 多世代が楽しく参加できる共通項は「食」ではないか? 家ではなかなかできないこと、遊びでできると良い。防災食を食べるとか、ヘルスメイトさんともつながれる。
- ◆ イベントを地域ケアプラザのホームページに載せたい時は連絡してほしい。写真もチラシもそのまま、PDFでもOK。お母さんたちが赤ちゃんの扱いが分からず不安になっている。
 - ▶ 乳児への関わり方が学べる講座をやったらどうか。異世代との交流も良いのでは。お年寄りに声をかけてもらうのはどうか。
- ◆ 「子育て応援マップ」や「南区子育てカレンダー」を活用していくことも必要。
- ◆ もう少し若い担い手が欲しい。担い手不足はどこも深刻である。
- ◆ 公園愛護会では種まきをしている。
 - ▶ イベントがあると人がつながっていく。子どもにとっても1回でも話したことがある大人には、安心感がある。

参加者の感想・意見 (アンケートより抜粋)

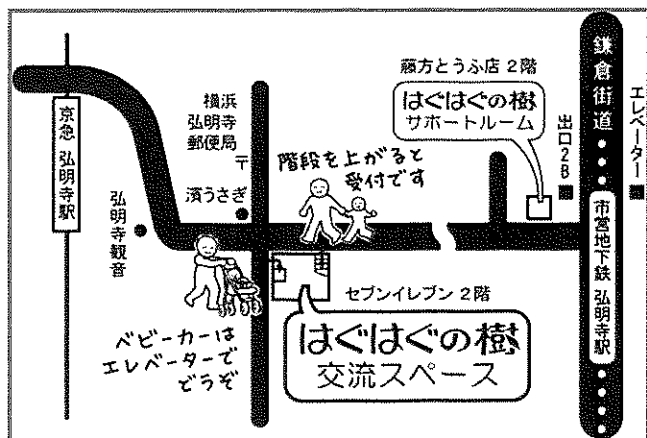
- ◇ 近隣の施設やサロンのやっていることがわかり、情報交換することで活かせるものがたくさんあることがわかった。
- ◇ ケアプラザさん、がんばっているなあと感じました。子育て中のママの特技が活かせる取り組みがあると将来の担い手にもつながるのではないかと思います。
- ◇ 具体的な共催事業のアイデアが形になりそう。

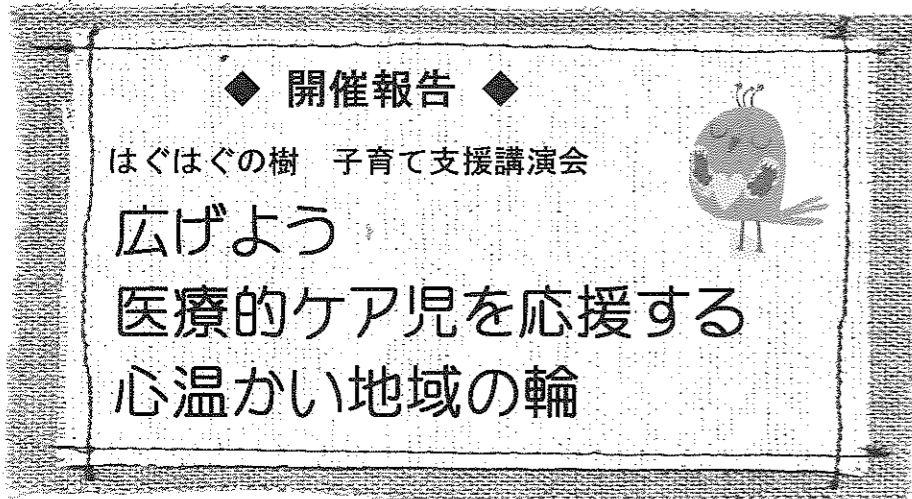


年4回発行しています。ご意見やご感想をお寄せください。また、はぐはぐの樹ホームページにバックナンバーを掲載しています。

「にこで~和手~」第28号
【発行】

南区地域子育て支援拠点はぐはぐの樹(サポートルーム)
〒232-0056 南区通町4-115 アイルイン弘明寺2階
TEL:720-3655 FAX:715-3815
MAIL: info@haghagnoki.jp





1月19日土曜日の午後、はぐはぐの樹主催の子育て支援講演会『広げよう 医療的ケア児を応援する心温かい地域の輪』を開催しました。参加者は、地域の方々、子育て支援関係者だけでなく、医療・保育等の専門職の方や、行政職員、学生、そして当事者の方と分野を超えて約150名。会場の大岡地区センター3階レクホールは、ほぼ満席となり、熱気あふれるひと時になりました。

(講演内容を一部ご紹介します。)

講演2 「難病の子どもの就園・就学とは 難病児の母が受入れ側になって見えてきたこと」

NPO 法人 Small Step 代表理事 赤荻聡子さん



責任

第2子出産前はフルタイムで仕事をしていました。出産翌日に救急で搬送され心配でパニックになった。生後2日で病気の診断を受け、6回の手術、5回目の手術の時には脳梗塞も起こした。執刀医から術前説明を受け、リスクをしっかりと理解した上で親が手術をするかしないかを決断しなければならなかった。

自宅へ戻る

病院から在宅酸素で自宅へ戻った。横浜こぐま園(心臓病の子どもと家族の集い)へ通ったが、そこで出会った方のおよそ半数に入園を拒否された経験があり、入園できても親と通園している方や付添い通園している方もいた。なぜずっと親と一緒になの？自立できないの？という疑問が生まれた。

入園へ対する親の思いと受入れ側の思い

2016年に第2子入園を目指したが、在住区の保育園は全て不可の結果となり、医療ケア児の入園の厳しさを実感した。その後、区外の保育園へ入園、看護師の加配などを得て2018年4月ようやく区内の保育園に入園できた。この時に感じたのは「何かあったら責任が取れない」という受入れ側とのギャップで、どうして受け入れてもらえないのか理解出来なかった。周りからも集団生活は無理なんじゃないか？と言われ諦めの境地だった。

今、受入れる側になって、この時期のこの経験は必要だったと思えるようになった。自分がどうして子どもを入園させたいのか、自分の子に危険があっても、それでも集団生活を送らせたいかを考えた。結果、「短時間でもいいから登園させたい」と、リスクに対して覚悟を決める時間になった。

保育園開設、そして、これから…

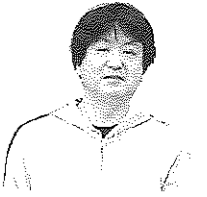
様々な思いを経て、2018年4月、医療的ケアを必要とする子も入園できる『すもーるすてっぷ保育園』を開園した。しかし、保活をしていた時のことが逆に自分に返ってきた。「何かあったら責任を取れない」の言葉が園内でも上がった。親と受け入れ側の認識が全く違うという現実と直面する。親は「リスクに対する覚悟はできている。過大な責任は求めている。」それに対して受入れ側は「集団生活は簡単ではない。責任の所在が不明確。」と、お互いの気持ちが平行線だった。

今は、リスクを明確化する事に取り組んでいる。集団生活においてはリスクが伴う。それでも預けるかは家族が決めること。大切なのは、お互いの気持ちを受入れ、折り合いをつけること。受け入れる側も構えすぎず、出来ないことはできないと伝える。でも一つでもできることがあれば受け入れて欲しい。すもーるすてっぷ保育園も最終的には「私たちが受け入れるから、お母さんたちは仕事頑張るね」と、いつでも言える場所にしたいと思っている。

まだ色々あるが、母親として腹をくくってやっている。小学校になると又、新しい課題がうまれるが、当事者の私たちが頑張るしかない。支えてくれる人はたくさんいるので、皆でつながって前に進んでいけるといいなと思う。

講演1 「命を支える ～ドラマ「コウノドリ」の撮影協力で感じたこと、伝えなかったこと～

神奈川県立こども医療センターNICU 医師 豊島勝昭先生



ドラマ「コウノドリ」撮影協力について

ブログ「がんばれ！！小さき生命(いのち)たちよ」のご縁で、ドラマ「コウノドリ」へと繋がった。初めは前向きではなかったが、「NICUを知らないで産科は描けない」と真剣に学ぶスタッフさんや役者さんたちの姿、「NICUは陰しくなく穏やかで優しい空気感」の言葉に、手伝うというよりも一緒に伝えたいという思いで撮影協力をした。

NICU という場所

病院では残念ながら亡くなる赤ちゃんもいるが、たくさん頑張った赤ちゃんだからこそ、「かわいそう」ではなく、生まれてきたことを称えたいと思っている。医療センターでは『祈りの部屋』という、赤ちゃんが最後の時間を過ごす特別な場所がある。頑張った家族の気持ちにスタッフも寄り添いたいと思っている。

NICU からの卒業～救命医療から支える医療へ

入院が1か月を越えると自宅に帰ることを勧めるケースもある。ドラマ撮影の際も役者さんから「病院の方が安心じゃないか」という気持ちがあり、どう演技を進めていいかわからない」と言葉があった。NICUは病気や障がいと共に生きている人たちを応援する場所だと思っている。家族の地域生活を支える医療を目指していきたい。

障がいとは、社会の中での生きづらさ

病気や後遺症の重症度と“障がい感”は同じではない。「病院では障がいを感じなかったけど、自宅に戻ってからの周りの目や、何気ない言葉が辛かった」と言う人が多い。例えば街の中で一緒に何かをやるのは簡単ではない。バリアフリーコンサートも障がい者しか参加できないと思っている人も多い。

出生前診断について

日本では救命医療は進歩しているが、中絶につながる胎児診断はダブル視されている。障がいとわかって出産をやめる親、産む親、どちらが正しいではなく、賛否があるからこそ議論するべきで、そこに大切なことがある。病気や障がいがあっても産んだ親が不安にならない社会になって欲しい。

目指すもの

どんなに医療が進歩して救える命が増えても悩みは生まれてくる。NICU卒業がゴールではなく、その後の家族にも寄り添いたい。しかし、それには医療だけではダメで、生きていくためには地域で共に歩んでくれる人たちがいる必要がある。

何より大切なのは子どもが元気であること。自分の子を人と比べない、それぞれが頑張っていると思える人こそ、かっこいいと思う。障がいは病気ではなく“ひと手間かかる”こと。養育レジリエンス(養育困難を克服できること)を上げていけるような、“赤ちゃんを救うNICU”から“家族全体を支えるNICU”を目指したい。南区が、未来に生まれてくる子どもたちを応援する穏やかな街になったらいいなと思っている。

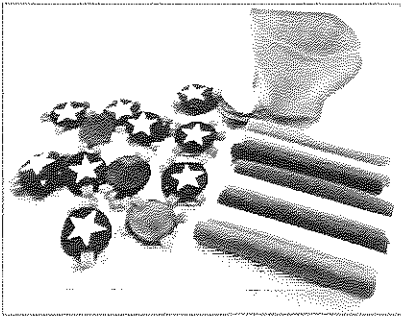


参加者の感想

こども医療センターで治療している間の辛さは消えるものではありません。地域に入っていけない気持ちも…。でも24歳になった息子は自分の人生をしっかりと生きています。感謝に堪えません。

家族や医療者の気持ち、想いが響いてくる内容でした。障がいとは何か。“それぞれが、その人らしく生活できる”そういった環境が作っていけるといいなと思いました。

特別支援学校に勤務しています。「お家の病院化」まさに学級でも教育と医療が共存し、障がいも重症化しています。ケア児の過ごしの場所、地域内の主治医、その地域でケア児を受け入れられる体制づくり。今後課題となる部分等、多くの気づきがありました。学校では「教育の場」ということを常に忘れず、子どもの人生が豊かになるよう、頑張っていきたいと思っています。



「星釣り」魚釣りの要領で遊びます。
セタやクリスマスにピッタリ!

皆さんの活動にお役立てください!

はぐはぐの樹 “貸し出し”いろいろ

はぐはぐの樹では、「南区子育てもっとネット」参加団体と「南区子育てサークル」今年度登録サークル等を対象に下表のような貸し出しを行っています。費用はかかりません。ぜひお気軽にご活用ください!



エプロンシアター「まる・さんかくしかく」。覚えやすい演目です。

種類	期間・数	内容	利用方法など
絵本 書籍 紙芝居	2週間 1回 5冊 まで	乳幼児の読み聞かせに適した絵本・紙芝居の他、支援者向けの書籍もあります。	★はぐはぐの樹開館中(火曜～土曜 9時30分～4時。但し、祝休日、月曜日が祝休日の翌日、年末年始は休み)に直接お越しください。 ★貸し出しノートにお名前・連絡先・所属などを記入してください。 ★予約・取り置きはできません。
布おも ちゃ シアタ ー類	2週間 1回 3点 まで	的当て・魚釣り等の布おもちゃとエプロン・パネルのシアターがあります。	★貸出希望日の2か月前以降、はぐはぐの樹交流スペース(715-3728)に電話して予約し、その後、品物を取りに来てください。 ★貸し出しノートにお名前・連絡先・所属などを記入してください。 ★希望が重なったときは日程や貸出期間を調整します。
研修室	1回 2時 間程度	★はぐはぐの樹サポートルーム内にあり、子育て支援活動のミーティングや作業に利用できます。 ★広さは8畳程度で、10人位までの利用が可能です。 ★親子で行う催しには利用できません。 ★非営利の子育て支援活動に限り、印刷機・紙折り機を使えます。(用紙は持ち込み)。必ず事前にサポートルームにご相談ください。	★利用希望日の3か月前から、はぐはぐの樹サポートルーム(720-3655)に電話で予約できます。

はぐはぐの樹ホームページの「子育てを応援する皆さんへ」の中に、写真付きの「貸し出しおもちゃリスト」がありますので、ぜひご覧ください!

31年度は次期の「子ども・子育て支援事業計画」策定の年。まず知って一緒に考えてみませんか? 2つの催しの案内です。

子育て支援フォーラム
(調査報告とパネルディスカッション)

これからの地域の子育て支援を Re デザインする

「子育てについてのアンケート調査」から見えた居場所の価値

家族のあり方が多様化し、地域での支え合いがますます重要になる中、親子の居場所はどのような役割を果たしているのか。調査結果から、その成果を再確認し、これからの可能性と未来について語り合います。

2019年4月21日(日) 9:45～13:00 (開場 9:30)
横浜市社会福祉センター(桜木町駅前) 4階ホール
参加費無料

子育て支援に関わっている方、関心がある方 先着 280名
申し込みはこちらから (または、はぐはぐの樹 横田まで)

主催: よこはま地域子育て支援拠点ネットワーク
後援: 横浜市子ども青少年局

**31年度 横浜市子ども青少年局
予算説明&意見交換会**

H31年度の横浜市の予算概要が発表されました。現行の「子ども・子育て支援新制度」は最終年度。横浜市では次期5か年の計画策定がスタートしています。子育て家庭をめぐる社会状況は大きく変化しています。切れ目のない施策、支援とはなんでしょうか。市民・当事者の目線で一緒に考えましょう。

2019年5月20日(月) 14:00～15:30
横浜市市民活動支援センター(桜木町駅徒歩10分)
4階ワークショップ広場
参加費無料 関心がある方どなたでも 先着30名
申し込みはこちらから (または、はぐはぐの樹 横田まで)

横浜市子ども青少年局
31年度予算概要への
質問も大募集!
←予算概要のWEBサイト

参加申し込み・質問の締切: 5月13日
主催: よこはま一万人子育てフォーラム
jmanninkosodate@gmail.com